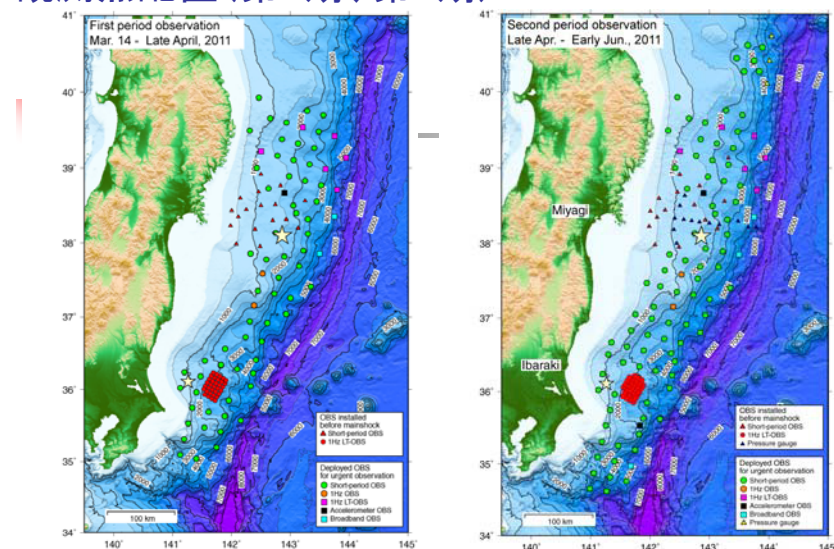
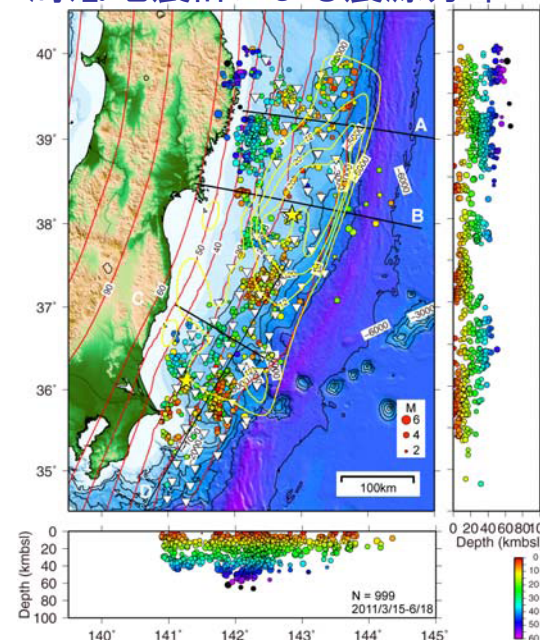


観測点配置(第1期、第2期)



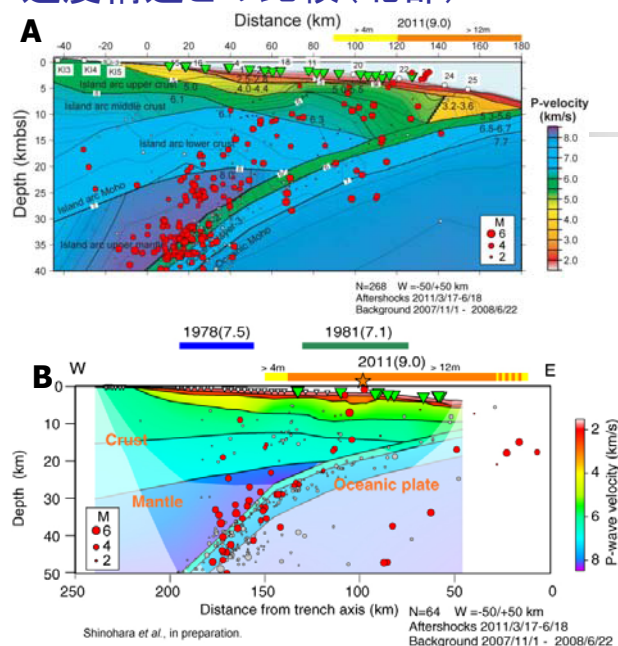
- 第1期(本震直後 - 4月下旬) 72台を新たに設置 25km間隔
- 第2期(4月下旬 - 6月初め) 77台 第1期とほぼ同じ地点

海底地震計による震源分布



- 1次元構造による絶対走時を用いた震源決定
- 気象庁カタログに基づく地震の選定
- P波読み取り3点以上かつS波読み取り1点以上
- 観測点補正値を推定、適用
- 深さ方向の誤差3km以内、水平方向の誤差5km以内
- 3月12日から6月18日までの999個
- 時空間的に均質ではないので、震源位置に着目

速度構造との比較(北部)



- 本震震源付近のプレート境界では、余震はほとんど発生していない。
- 北部の滑り量が比較的小さいところでは、プレート境界付近にも余震活動が見られる。
- 30km以深では、プレート境界付近の余震活動は活発である。
- 陸側プレートの殻内で発生する地震は、正断層型が多い。